

# 学校の詩

うた

令和2年5月発行 学校便り

学校の教育目標

## 自律貢献

文責:校長 藤井浩彦

### ◆1学期の始業式を行いました！

5月25日、令和2年度1学期の始業式をようやく実施することができました。3月の臨時休業からやっと先週の分散登校、そして今週の午前中登校を迎えることができました。まだまだ、気を緩めることなく、感染防止に十分配慮しながら子ども達の笑顔が溢れる学校づくりを推進していきたいと思ひます。始業式では次のようなお話をさせていただきました。

1つ目は、学校の教育目標（子ども達の目指す姿）についてのお話です。皆さんに目指してほしい姿を覚えやすいように「自律貢献」としました。「自律」には、『自分を律し、よりよい行動をとっていくこと。また、夢や目標に向けて粘り強く努力すること。課題解決に向けてやり続けること。さらには、挨拶ができる、時間を守る、掃除に熱心に取り組むなどの凡事徹底を基本としながら仲間と協働して物事を進めること。』という意味があります。「貢献」は、『地域・社会への貢献ということももちろんありますが、身近な周りの人への思いやりや相手意識をもって行動すること』です。また、『目配り・気配り・心配りができる。』ということです。常に、「自律貢献」という言葉を意識して、日常生活を送ってほしい。そのことが自分自身の成長にもつながると同時に、周りの人を笑顔にするのだと思ひます。

2つ目は、「部活動」についての話です。運動部においては、筑紫区の大会以外中止となってしまいました。また、吹奏楽のコンクールはすべて中止となっています。そんな中、部活動を26日から再開したいと思ひています。特に3年生にとっては、部活動ができなくなっていた中での中止でした。このまま練習もないまま終わってほしくない。どのような形であっても、3年生に一区切りをつけて、次のステップや目標に向かってほしい…3年生のこれまでの頑張り先生方もみんなわかっています。だから、「中止」という決定がどれだけつらく悲しく複雑な心境かわかります。最終的には、どんな結果になろうともそれを受け入れ、また前を向いて歩いていってほしい。卒業するとき、いろいろあったけど頑張った！そして、10年後、20年後…に私たちはあの厳しい状況乗り越えたからこそ、今がある！と胸をはって言えるように。

休校やこの厳しい状況の中で、私たちは当たり前ありがたさを知りました。学校に行けるありがたさ、友達と共に学べるありがたさ、一緒に部活動ができるありがたさ、社会で私たちの生活や命を守ってくださっている方々のありがたさ…私たちは多くの「人」「もの」「こと」に支えられながら、幸せや喜び、笑顔をいただいているのです。

これから、このメンバーで、共に力を合わせ、笑顔溢れる学校にしましょう！マスクで表情は見にくいかもしれないけれど、すべての生徒が心から笑顔になるようにしましょう。最後に、「命は何より大事」そして、同時に「命を大切にすることということは、精一杯命を使って頑張ること」だと思ひます。それが「生きる」ということです。さあ、新たなスタートです。共に頑張りましょう！

その後、生徒会長の柴崎くんが、全校生徒へ向けて、こんな言葉を伝えてくれました。

…まず、ひとつ大事にしてもらいたいことがあります。それは「早寝早起き」です。早寝早起きすることで、生活リズムを戻したり、免疫力を上げ新型コロナウイルス感染の予防をしたりできるので、みなさんで早寝早起きをしていきましょう！最後に、これから前向きな言葉を発してほしいと思ひます。新型コロナウイルスによって、できないことが増えています。そのことで、**後ろ向きな言葉を発しても誰も良い気持ちにはなりません。**です。ので、これから**前向きな言葉をたくさん発して、全員で協力してこの新型コロナウイルスを乗り越えていきましょう！**

まさに、柴崎くんの言うとおりでですね。後ろ向きな言葉を言うことで、よい方向に向かえばいいのですが、そうではありません。厳しい状況の中で、どう前向きに取り組んでいくかが大切なのです。人は逆境(ピンチ)に立たされたときこそ、真価を問われます。「前向きな言葉」をお互いにかけていながら素敵な御陵中学校にしていきたいと思ひます。

それぞれの学年に分かれたあとは、各学年主任がそれぞれの学年の生徒に、熱い思いを語っていました。3学年主任の山田先生は、「本来であれば、体育祭や部活動、様々なところで3年生の素晴らしさを後輩達に見せているところだと思う。コロナウィルスの影響で、いろいろなことが中止や制限の中での生活となるが、ぜひ前向きにやろう！日常の当たり前、凡事徹底をしっかりとやりながら…一日を三日分にしていこう！それくらい濃い一日を毎日過ごして最高の学年にしていこう！」と訴えていました。その話を真剣に聞いている3年生の姿は、やはり「さすが3年生！」というものでした。ぜひ、これから御陵中を引っ張って行ってほしいと願っています。



【3年生に熱く語る山田先生(写真中央)】

### 『困難なときにこそ…』

パナソニックの創業者である松下幸之助さんの著書「道をひらく」の中に次のような文章が載っています。

ひろい世間である。長い人生である。その世間、その人生には、困難なこと、苦しいこと、つらいこと、いろいろとある。程度の差こそあれ誰にでもある。自分だけではない。そんなときにどう考えるか、どう処置するか、それによって、その人の幸不幸、飛躍か後退かが決まるといえる。困ったことだ、どうしよう、どうしようもない、そう考え出せば、心が次第にせまくなり、せっかくの出る知恵もなくなる。今まで楽々と考えておったことでも、それがなかなか思いつかなくなってくるのである。とどのつまりは、原因も責任もすべて他に転嫁して、不満で心が暗くなり、不平で我が身を傷つける。「断じて行えば、鬼神でもこれを避ける」という[断固とした態度で行えば、鬼でさえその勢いにおされて避けていく。決心して実行すれば、どんな困難なことも必ず成功することのだとえ]。困難を困難とせず、思いを新たに、決意をかたく歩めば、困難がかえって飛躍の土台石となるのである。要は考え方である。決意である。困っても困らないことである。人間の心というものは、孫悟空の如意棒(にょいぼう)のように誠に伸縮自在である。その自在な個々として、困難なときにこそ、かえって自らの夢を開拓するという力強い道を歩みたい。

私自身も、新型コロナウイルスの影響で、休校になったり、行事ができない、今まで通りの生活ができないなど、様々なことを考えて、後ろ向きな気持ちになったり暗い気持ちになったりしたのも事実です。しかし、柴崎くんの言葉にもあったように、後ろ向きな言葉・考えでは決してよくはないのです。この厳しい状況の中で、どうすれば良い方向になるのか？どうすれば周りが笑顔になるのか？…考え方を考える、そして前を向いて決心し突き進んでいくことで、新たなよい道は開けてくるのだ、困難こそが人を飛躍させ成長させるのだと、松下氏は教えてくれているのだと思ひます。また、将棋の棋士、羽生善治さんはこんな言葉を残しています。

『成果が出ない時こそ、不安がらずに、恐れずに、迷わずに一步一步進めるかどうか、成長の分岐点であると考えています。』

つまり、物事に行き詰った時こそが勝負であって、そこで少しずつ頑張れるか頑張れないかで、今後の結果が変わるということを意味しています。ピンチはチャンスとなるべく、自身を信じて一步一步前を見て進んでいくことこそが大切なのです。今は、不安との戦いかもしれません。目に見えない、そして見通しが立たない、正解がわからない。しかし、その中で「最適解」を見つけるべく、一步一步前進していくことが、自分の成長であり、その壁を克服していくことにつながるのだと思ひます。

令和2年度がスタートしました。学校は、子ども達が主役です。主役の子ども達が輝く学校、笑顔が溢れる学校にするべく、私も一步一步着実に歩みを進めたいと思ひます。